

# 2023年度 稲生小学校 校内研修計画

## 1 研究主題及び教科

研究主題	自ら考え、共に学び合う子どもの育成
教科・領域	算数科

## 2 主題設定の理由

本校では、算数科の校内研修を2年間進めてきた。初年度は、研究主題を「一人ひとりが考えをもち、共に高め合おうとする子どもの育成～考えを表現し伝え合う学習活動を通して～」とし、自分の考えをもつことができる子どもを増やすことができた。しかし、友だちと考えを「伝え合い、学びを深める」ところまでは十分に至らなかった。

初年度の課題を踏まえ、昨年度は、個々がもった考えをどのようにつなげ、深めていかや、児童が自ら伝えたい、学びを深めたいという意欲をもつことに焦点をあてた。研究主題を「一人ひとりが考えをもち、共に高め合おうとする子どもの育成～わくわくしながら考えを表現し、伝え合う学習活動を通して 2年次～」とし、わくわくのある授業とICTの活用を中心に研修をすすめてきた。実生活の課題と算数の学習をつなげられるような課題の設定や問いかけを行ったり、ICTを用いてヒントを提示し、個々に合わせて選択させたりすること等を実践したことによって、子どもたちの学習意欲につなげることができた。一方で、子どもたちが「共に学び合い、高め合っているか」という点では、引き続き課題が見られた。

また、昨年度の2学期末に行った算数アンケートでは、「わくわく」するのは、「新しいことがわかったとき」「ちょっと難しい問題に取り組むとき」という子どもが多かった。わからないことがあったときには、「友だちにたずねる」という回答が多く、授業中話し合う場面では、「みんなに聞こえる声で話し、反応しながら聞くよう気をつけている」という回答が多かった。これらの結果から子どもたちは、新しい発見があることや難しいことに挑戦することを楽しいと感じ、友だちとともに学ぶことを肯定的にとらえているといえる。

今後、さらに子どもたちが生き生きと自ら学び、共に学び合い、高め合っていくためには、教師主導で進められる授業でなく、子どもたち自身が主役となって進められる授業でなくてはならない。子どもたちから疑問や発見を生み、自ら考えていけるための授業展開や発問、教材を工夫することや、自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞き合ったりする協働的な学習活動を効果的に取り入れること等を実践していく必要があると考える。これまでの研究と子どもの実態から、今年度の研究主題を「自ら考え、共に学び合う子どもの育成」と設定する。

## 3 算数科でめざす子どもの姿

	自ら考える	共に学び合う
低学年	学ぶことに興味や関心を持ち、問題の解決に向けて粘り強く取り組むことができる子	相手を意識して、問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現したり、友だちの考えを聴いたりすることができる子
中学年	学ぶことに興味や関心を持ち、問題の解決に向けて見通しをもって粘り強く取り組むことができる子	相手にわかるように、問題解決の過程や結果を、図や式、表、グラフなどを用いて表現したり、友だちの考えと比べながら聴いたりすることができる子

高学年	学ぶことに興味や関心を持ち、問題の解決に向けて見通しをもって粘り強く取り組み、学習活動を振り返ることができる子	相手や目的に応じて、問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて表現したり、友だちの考え方と比べながら、よりよい考えを導き出したりすることができる子
-----	---	---

#### 4 研究内容及び方法

##### ◎教材の研究・開発

- 例・疑問や発見が生まれる問題
- ・多様な考えが出されやすい問題
  - ・すぐに解けそうに見えて難しい問題
  - ・日常生活との関連がある問題
  - ・感覚や予想とのずれが起きやすい問題
  - ・答えが1つに決まらない問題
  - ・しかけや糸口がわかると解ける問題

##### ◎発問・問題提示の工夫

- 例・問題や具体物を一瞬だけ見せて隠す
- ・求答文を書かずに考えさせる
  - ・問題文をゆっくり書き、対話を挟む
  - ・問題文を条件不足や条件過多にする

##### ◎問い返し・反応の工夫

- 例・なぜそう考えたか問う
- ・とぼける、黙るなどして反応を待つ
  - ・他の子に説明させる
  - ・誤答をすぐに正さず考えさせる

##### ◎話し合い活動・発表の工夫

- 例・話名人、聞き名人の指導
- ・立場をはっきりさせる（賛成・反対・わからない）
  - ・友だちの発表を繰り返させる
  - ・発表を途中で止めて、続きを考えさせる
  - ・気づいた子どもに答えではなくヒントや過程を言わせる
  - ・ペア・グループ・全体等の場に応じた形態
  - ・オクリンク等の ICT の活用

##### ◎ICT の効果的な活用

昨年度まで…ICT 活用の場面を広げる、教師、子どものスキル向上  
 今年度…活用方法、場面の精選 【令和5年度 ICT 教育推進目標】の共有

##### ねらい

- ・子どもの学習意欲向上
- ・視覚支援や操作活動による思考の深まり
- ・子どもの意見の共有、交流
- ・効率化による学習時間の確保
- ・学習内容の記録、次時以降への活用
- ・家庭学習への活用

## ICT コンテンツ例

- ・ ミライシード（オクリンク，ドリルパーク）
- ・ デジタル教科書（教師用，子ども用）
- ・ Google Classroom                      ・ Google フォーム
- ・ Google ドキュメント                  ・ Google スプレッドシート
- ・ Google スライド                        ・ Google 図形描画
- ・ Google Jamboard                       ・ 書画カメラ

### ◎授業力 UP 5 ★の周知・活用

- ・ 育成を目指す★「資質・能力」を明確にし，授業のねらいをもつ
- ・ 自ら考え，学び合うための★「めあて」と★「学習活動」
- ・ めあてに正対した★「まとめ，振り返り」
- ・ 効果的な★「端末活用」

### ◎既習事項の定着を図る

- ・ 単元の導入等で学習内容にかかわる既習事項を確認する
- ・ 既習事項をもとに考えさせる意識付けをする
- ・ 学習内容にかかわる掲示物の作成，掲示
- ・ 朝の学習等の時間に復習させる

### ◎国語力の向上を図る

- ・ 言葉に関する指導の充実（主語，述語，漢字，慣用句等）
- ・ 読む YOMU ワークシート，読む・書くワークシートの活用
- ・ 全国学力・学習状況調査，みえスタディ・チェックの結果分析に基づく取組

### ◎その他，授業を支える日常の取組

(1) 話し方，聞き方を系統的に指導する。（話し名人 聴き名人の系統化）

<低学年>

#### 【はなしめいじんになろう】

1. きこえるこえで
2. きいているひとをみて
3. さいごまでしっかりと
4. はなすじゅんばんをかながえて

#### 【ききめいじんになろう】

1. よいしせいで
2. はなすひとをみて
3. うなずきながら
4. さいごまでしっかりと

<中学年>

#### 【話し名人になろう】

1. 聞こえる声で
2. 聴いている人を見て
3. 最後までしっかりと
4. 話の中心を考えて

#### 【聴き名人になろう】

1. 話す人を見て
2. 反応しながら
3. 自分の考えと比べながら
4. 大事なところを落とさずに

<高学年>

【話し名人になろう】

1. 聞こえる声で最後まで
2. 聴く人の反応を確かめながら
3. 友だちの考えにつなげて
4. 事実と感想，意見を区別して

【聴き名人になろう】

1. 話す人に体を向け目を見て
2. 反応しながら
3. 自分の考えと比べながら
4. 話す人の言いたいことを考えながら

(2) 朝の学習・モジュール学習

- 朝の学習・モジュール学習 8：25～8：40（15分間）
- モジュール学習では語彙力を身につけたり高めたりすること等の国語力の向上を意識する。

(3) ノートの使い方（教科や学年の実態に応じて工夫する）

- 各ノートに日付を書く習慣をつける。
- 問題番号は、左から右に書く。
- 教科書やノートの枠外に小さく筆算をしない。
- 宿題ドリルノート・・・途中計算式があるかどうかをチェックする。（計算過程を重視する。答えを丸写しせず、わからないときは答えから類推して考えさせる。）
- 学年や単元，教科に応じて縦線を引き，インデントにする。縦線の左側には，ページ，問題番号などを書く。
- 問題と問題の間は一行空け，見やすくなる工夫をする。
- 直線は必ず定規で引く。「右手に鉛筆，左手に定規」を徹底する（利き手が違う場合は逆に）
- めあては青えんぴつ，まとめは赤えんぴつを使って囲む。
- 算数の文章問題は3点セット（横式，筆算，答え）でまとめる。

(4) 学習用具

- 筆箱のなかみは，削った黒鉛筆5本程度。赤青鉛筆は1～2本（折れた時は学校で削ってよい）定規1本 消しゴム1個
- 下敷きを使う。

(5) 整った学習環境づくり

- ・黒板の上の掲示・・・しない
- ・黒板の使い方・・・何も書かない，貼らない
- ・教室の掲示物・・・作品は一か月以上貼らない。  
（学習に必要な，あるいは意欲をもたせるような掲示物を考える）
- ・学び合うための掲示・・・「話し名人になろう」「聴き名人になろう」をたえず意識させる。

## (6) 家庭学習の充実

- 基本的に「音読」・「漢字」・「計算」の3点を出す。クロムブックを活用する。
- 家庭学習のてびきを発行し、保護者と連携して取り組む。
- 子どもたちの自主性や意欲につながる自主学習を工夫する。

## (7) 読書活動の充実

- 季節の飾りや新しい本・学年の本紹介コーナーを作り、足を運びたいくなるような図書館にする。
- 読書週間「読書チャレンジ」「読書のパズル」に学級単位で取り組ませ、読書の習慣化を図る。
- 図書委員による「図書館まつり」を行い、本の読み聞かせや紙芝居を行う。
- 月に「低学年は6冊，中学年は4冊，高学年は2冊以上」図書館で本を借りることを目標にする

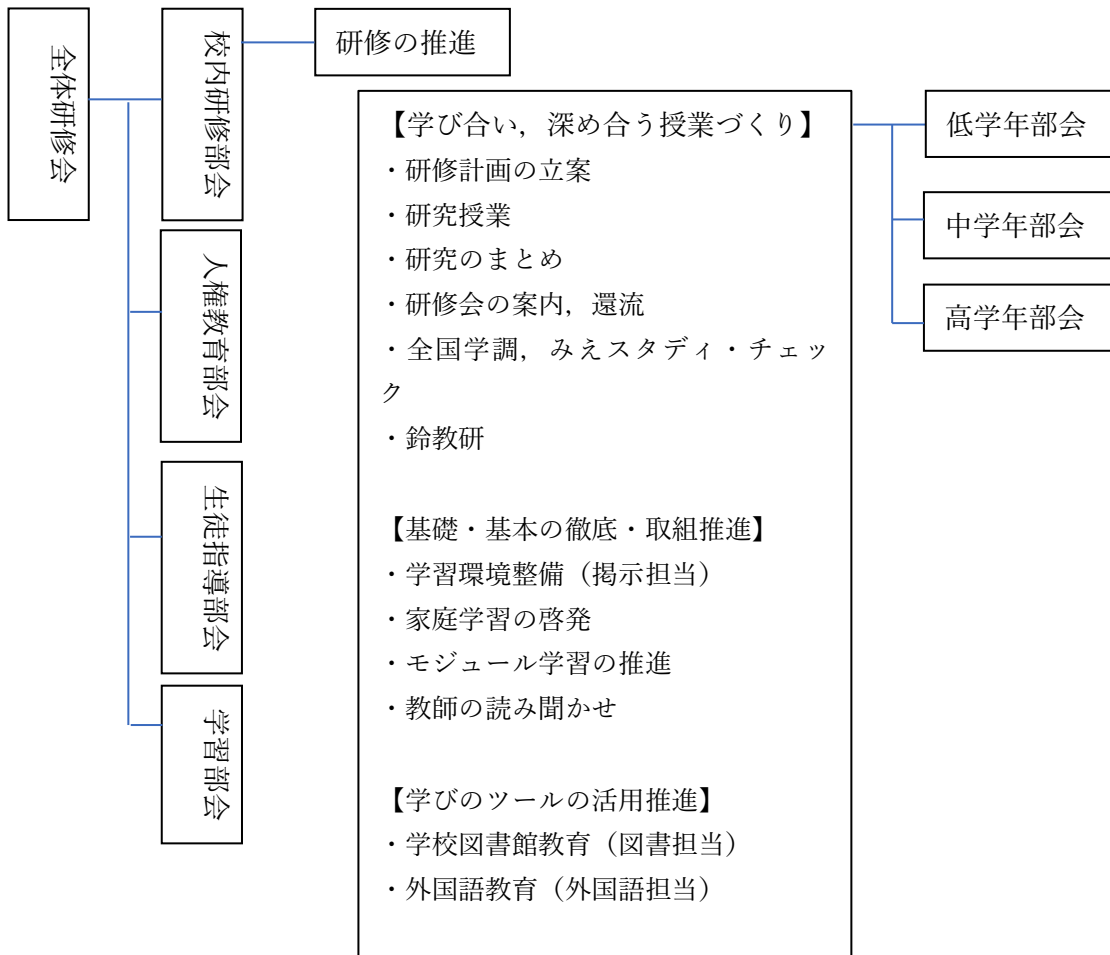
## ◎教職員間の交流

- ・全学年での研究・公開授業、事後検討会の実施
- ・積極的な授業公開・参観の実施
- ・研修だよりの発行

## 研修会等を通して…

- ・個々の目標や課題の設定
- ・取組に対する振り返り
- ・個々の取り組みや悩みについて意見交流

## 5 研究の組織



## 6 資料

# 「授業力UP5★」

～子どもたちが主役の授業へ～

### ★ 資質・能力

- ・育成を目指す「資質・能力」が明確になっているか。
- ・ねらいを達成した児童生徒の姿が具体的に想定できているか。

### ★ めあて

- ・主体的に学習に取り組める「めあて」になっているか。
- ・授業で何をするか（見通し）が明確になっているか。



### ★ 学習活動

- ・課題解決に向け、個別の学習活動が設定されているか。
- ・自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞き合ったりする協働的な学習活動が設定されているか。



### ★ まとめ

- ・「めあて」に正対した「まとめ」や「振り返り」になっているか。
- ・「何を学習し、何が分かったのか、何ができるようになったのか」等、振り返りの視点が明確になっているか。

### 振り返り

### ★ 端末活用

- ・学習のねらいを達成するための手段として、効果的な活用場面が設定されているか。

- ・端末の活用が、個別最適な学びや、協働的な学びにつながっているか。

★…1時間の授業を考える5つの視点

## 7 年間研修計画

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容、目的、方法、統一事項等の共通理解</li> <li>・ 研修日程の調整</li> <li>・ 年間指導計画作成（カリキュラム・マネジメント）</li> <li>・ 学力・学習状況調査とみえスタディ・チェックの実施、自校採点・分析</li> <li>・ 授業研究（公開授業）</li> <li>・ 校内研修会</li> <li>・ 指導案作成</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業研究（公開授業）</li> <li>・ 校内研修会</li> <li>・ 校外研修</li> <li>・ 指導案作成</li> <li>・ 年間指導計画の見直し</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修のまとめ</li> <li>・ 紀要の作成</li> <li>・ 来年度の研修に向けて</li> </ul>

